

令和5年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 一般社団法人滝川国際交流協会 (都道府県：北海道)

1. 当該地域の情報 (令和 6年 1月末現在)

地域の課題	滝川市は、これまで国際交流活動に積極的に取り組み、JICAやCLAIRなどと連携して研修員を受け入れるなど、国際協力の分野でも実績を積み、研修員と地域住民との交流など幅広い活動を行ってきた。また、グローバル化する社会に対応する人材育成に取り組み、外国語指導助手を7名配置するなど、市内の各学校では英語教育が充実している。 現在滝川市内に居住する外国人数は約120名で、永住者や就労により来日した方が大半を占めている。一時期外国人材在住者が減少傾向にあったが、令和5年度に入り増加傾向となり、滝川市内の企業等で技能実習生を受け入れるケースが増えつつある。実態把握に努めているが、各企業等と技能実習生受入監理団体との契約で雇用されているため、正確な把握は難しい。業務に多くの時間を費やしていることや生活面については実習生同士等でのやり取りで済ませることが多く、日本語習得の機会が少なく、学習に割ける時間も限られている。地域住民との交流場面も少ない。また雇用側の外国人就労者（技能実習生等）に対しての言葉も含め生活者としての支援についての理解度にも差がある。 人口減少と労働力不足は今後も続き、将来的には、技能実習制度から長期就労ビザへの移行、地域への外国人の定着を図る必要がある。そのためには、日本語教育や地域との交流による多文化共生社会を目指した取組が今後の地域の課題となる。また、外国人による地域参加の場を作ることや地域住民を巻き込んだコミュニティづくりを進める必要がある。
在住外国人数 外国人比率	【人口】37,234人 【在住外国人数】119人 【外国人比率】0.3%
在住外国人の状況	【主な国籍と人数】 ベトナム25人 フィリピン17人 韓国15人 ミャンマー11人 インドネシア10人 モンゴル9人 ネパール9人 米国7人 中国・台湾3人 【在留資格】 技能実習2号22人 特定技能1号19人 永住者16人 特別永住者14人 教育11人 技能実習1号9人 家族滞在8人 技術・人文知識・国際業務7人 技能4人 技能実習3号3人 【滞在年数・在留期間などの状況】 令和5年度になって、技能実習生及び特定技能等の就労者が増加している。特別永住者が減少しているので長期滞在者が減少、短期滞在者が増加している傾向が見られる。
在住外国人の 日本語教育の現状	令和3年度(2021年)に本事業(アドバイザー派遣)を受託し地域の現状分析を実施し、地域住民向け「やさしい日本語教室」を開催した。令和4年度(2022年)は在住外国人対象の日本語教室「たきかわにほんごひろば」を試行的に開催、令和5年度(2023年)は安定的に開催できるよう取り組んだ。

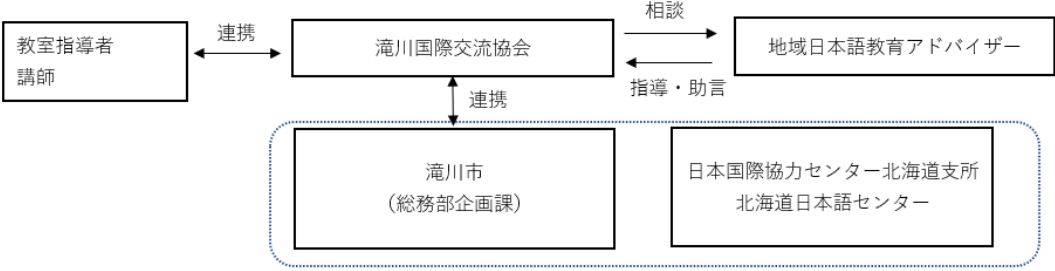
2. 事業の内容

本プログラム取組年数	3年目
事業の目的	滝川市は、地域資源や魅力を磨き、海外からの交流人口を増やし、にぎわいのある街づくりを目指してきた。当協会ではこれまでも様々な地域事業を実施して多文化交流を図ってきたが、令和2年度(2020年)に「多文化共生社会に向けたシンポジウム」を開催したことにより、滝川市における技能実習生の状況の一端を知る機会があり、言葉の壁によるコミュニケーション不足解消の重要性を改めて感じた。現在、人口に対する在住外国人比率は決して高くはないが、居住している外国人の実態把握が不十分であることや、技能実習生の受け入れを前向きにとらえている企業が増加傾向にあることから、在住外国人(技能実習生含む)などの実態把握に努め、「日本語教室」の開催により生活者としての日本語能力の向上を目指し、あわせて在住外国人による地域参加の場を作り、多文化共生を見据えた地域コミュニティづくりの推進を目的とする。

事業の概要	1 「たきかわにほんごひろば」（日本語教室）の実施。【日本語を学ぶ場・使う場】 ・ 5月から2月まで月1～2回の開催。（年間で16回実施） ・ 日本語を学ぶ機会を通して、外国人の地域参加を図る。 2 サポーター養成【人材育成】 ・ 日本語教室支援者を対象にOJT手法により開催。（7回） ・ 市民講座「やさしい日本語で交流」の開催。（9月開催） 3 企業との連携活動 ・ 外国人を採用している企業との情報交換、日本語教室の周知と参加への協力依頼。 4 広報活動 ・ 実施プログラムの周知や活動状況についての情報発信。 ・ 成果報告会の開催（2月）。 5 滝川市との連携 ・ 滝川市の担当部局と適宜適切な連携を図る。			
事業の対象期間	令和5年5月～令和6年3月			
前年度の実績 （2年目以降の 団体のみ記載）	1 「たきかわにほんごひろば」（日本語教室）の試行的実施（6回実施） 2 「たきかわにほんごひろば（交流）」（日本語教室）の試行的実施（4回実施） 3 サポーター養成講座の実施（4回実施） 4 3年目に向けた体制づくりと滝川市との連携 5 広報活動（実施プログラムの周知や活動状況についての情報発信）			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	阿部 孝志	滝川国際交流協会	参与	日本語教室の企画運営・関係機関との連携
	森田 詠美	滝川国際交流協会	事務局長	関係機関との連携・広報活動・日本語教室の運営
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	山田 泉	元法政大学	教授	継続（3年目）
	松岡 洋子	岩手大学	教授・副学長	継続（3年目）
	菊池 哲佳	（一社）多文化社会専門職機構	理事・事務局長	継続（3年目）

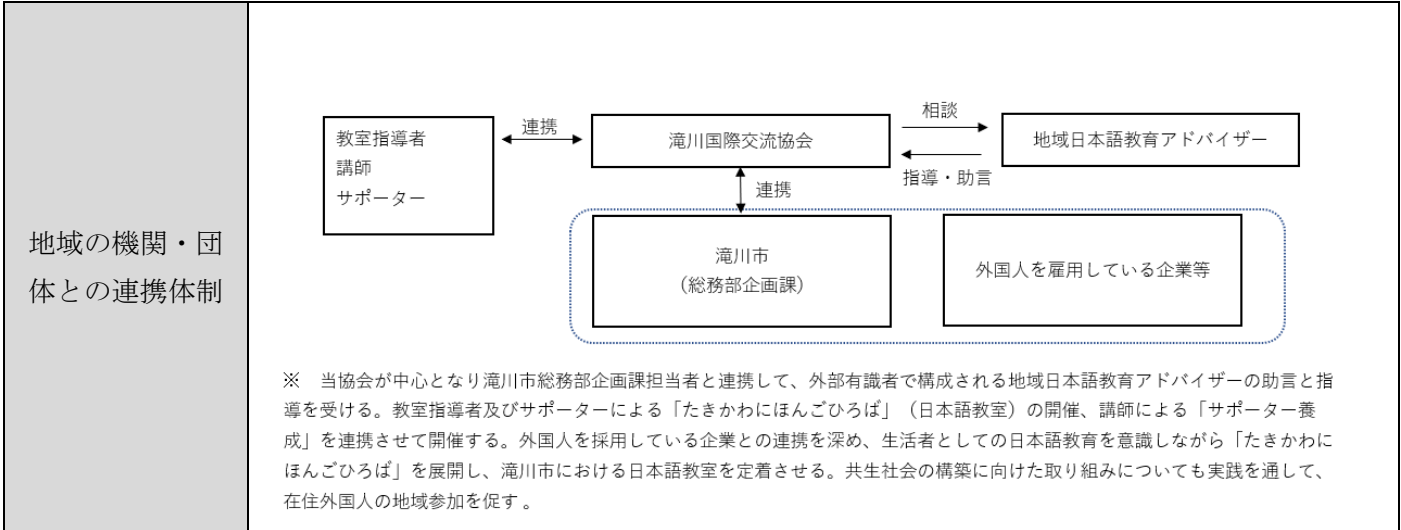
3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

（1）地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制	 <pre> graph LR A[教室指導者 講師] <--> 連携 B[滝川国際交流協会] B <--> 相談 指導・助言 C[地域日本語教育アドバイザー] B <--> 連携 D[滝川市 (総務部企画課)] B <--> 連携 E[日本国際協力センター北海道支所 北海道日本語センター] </pre> ※ 当協会が中心となり滝川市総務部企画課担当者と連携して、外部有識者で構成される地域日本語教育アドバイザーの助言と指導を受ける。検討組織において教室指導者や講師と連携し、次年度以降の自走を意識した日本語教室の全体計画を設計し実践する。さらに地域住民との共生社会の構築に向けたあり方を検討する。	
所属（担当課）	職名	担当者名
（一社）滝川国際交流協会	事務局長	森田 詠美
（一社）滝川国際交流協会	参与	阿部 孝志
滝川市 総務部企画課	課長補佐	鎌塚 誠
滝川市 総務部企画課	主任主事	吉原 彩
滝川建設協会	会長	田端 千裕
（一財）日本国際協力センター	北海道支所長	青木麻由美
（一社）北海道日本語センター	理事	阿部 仁美

—	日本語教師	浅倉 悠美
---	-------	-------

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
(一社) 滝川国際交流協会	—	事務局長	森田 詠美
(社) 滝川国際交流協会	—	参与	阿部 孝志
(一社) 滝川国際交流協会	—	事務局員	吉田 由喜
滝川市	総務部企画課	課長補佐	鎌塚 誠
滝川市	総務部企画課	主任主事	吉原 彩
(一社) 北海道日本語センター	—	理事	阿部 仁美
—	—	日本語教師	浅倉 悠美

4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和5年 4月	・サポーター募集 ・関係機関との調整 (滝川市新担当部署) ・日本語指導者との打合せ	・教室開設のための調整 ・関係機関等との連携・調整 ・アドバイザーとの連携	
令和5年 5月	・年間スケジュール調整 ・事業全体計画作成 ・滝川市広報誌による事業紹介 ・協会広報誌による事業紹介 ・企業等訪問活動 ・日本語教室「たきかわにほんごひろば」①	・実施体制検討 ・今年度の取り組み内容の検討 ・企業ヒヤリング ・サポーターとの連携 ・日本語教室運営	
令和5年 6月	・滝川市担当者との連携 ・日本語指導者との打合せ ・日本語教室「たきかわにほんごひろば」②③ ・サポーター養成講座①② ・FM ラジオ等での事業紹介	・関係機関等との連携・調整 ・日本語教室運営 ・サポーター養成講座運営	(メール報告・助言)
令和5年 7月	・事業計画書の作成 ・事業オリエンテーション ・キックオフ会議 ・日本語教室「たきかわにほんごひろば」④	・事業計画書の作成 ・関係機関等との連携・調整 ・キックオフ会議の企画・運営 ・日本語教室運営 ・他団体視察	(オンライン) ・キックオフ会議 今年度の事業計画への指導・助言

令和5年 8月	・事業計画書の提出 ・日本語教室「たきかわにほんごひろば」⑤⑥ ・サポーター養成講座③ ・FM ラジオ等での事業紹介	・事業計画書の提出 ・関係機関等との連携・調整 ・日本語教室運営 ・サポーター養成講座運営 ・市民講座の準備・広報	(メール報告・助言)
令和5年 9月	・日本語教室「たきかわにほんごひろば」⑦⑧ ・市民講座「やさしい日本語講座」 ・協会広報誌による広報活動	・関係諸機関等との連携・調整 ・日本語教室運営 ・市民講座運営	(メール報告・助言)
令和5年 10月	・日本語教室「たきかわにほんごひろば」⑨⑩ ・アドバイザー会議 ・FM ラジオ等での事業紹介	・関係諸機関等との連携・調整 ・企業ヒヤリング及び教室周知 ・日本語教室運営 ・アドバイザー会議	(オンライン) ・アドバイザー会議 今年度の実施状況への指導・助言
令和5年 11月	・実施団体情報交換会 ・空白地域研究協議会 ・他団体視察 ・日本語教室「たきかわにほんごひろば」⑪ ・サポーター養成講座④	・関係諸機関等との連携・調整 ・実施団体情報交換会参加 ・他団体視察 ・日本語教室運営 ・サポーター養成講座運営	(メール報告・助言)
令和5年 12月	・日本語教室「たきかわにほんごひろば」⑫ ・サポーター養成講座⑤ ・協会広報誌による広報活動 ・コーディネーター情報交換会	・関係諸機関等との連携・調整 ・日本語教室運営 ・サポーター養成講座運営 ・コーディネーター情報交換会参加	(メール報告・助言)
令和6年 1月	・日本語教室「たきかわにほんごひろば」⑬⑭ ・サポーター養成講座⑥ ・事業進捗確認書の提出	・事業進捗状況確認書の提出 ・関係諸機関等との連携・調整 ・日本語教室運営 ・サポーター養成講座運営 ・事業報告会準備 ・次年度に向けた検討	(メール報告・助言)
令和6年 2月	・日本語教室「たきかわにほんごひろば」⑮⑯ ・サポーター養成講座⑦ ・事業報告会 ・アドバイザー会議	・関係諸機関等との連携・調整 ・日本語教室運営 ・サポーター養成講座運営 ・事業報告会企画・運営 ・アドバイザー会議の準備・運営 ・他団体オンライン教室視察	★アドバイザー会議 事業報告会での指導・助言 日本語教室の視察及び今年度の実践への指導・助言
令和6年 3月	・事業報告書の提出 ・協会広報誌による広報活動	・関係諸機関等との連携・調整 ・次年度に向けた検討	(メール報告・助言)

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	「たきかわにほんごひろば」		
外国人参加者について	[国籍] ベトナム7名、アメリカ5名、モンゴル4名、インドネシア3名、ウズベキスタン・フィリピン2名 [属性] 技能実習生や家族滞在等が主な対象		
参加者数 (内 外国人数)	受講者28名(延参加者数82名) 支援者14名(延参加者数115名)※日本語教師・コーディネーター除く (日本語指導者0名、サポーター3名(延10名)) 一般参加者・教室見学者(延参加者31名)		
開催時間数	総時間 36.5時間	内訳 2時間×11回	2.5時間×1回 3時間×4回
目標	・受講者の日本語での行動能力を把握し、日常生活に必要な日本語の能力をつける。 ・多文化交流による外国人の社会参加をめざす。 ・参加する外国人が主役となる場面づくりをめざす。		

実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	令和5年 5月21日(日) 13:00～15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	4	オリエンテー ション 自己紹介	・主催者あいさつ ・自己紹介のための名刺作成 ・自己紹介のための日本語	日本語指導者1名 サポーター5名
2	令和5年 6月11日 (日) 13:00～15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	6	1年の計画 滝川のお祭り	・アイスブレイク ・カレンダーから1年の計画 や目標を考えて伝える ・例大祭の見学を通じた会話 練習	日本語指導者1名 サポーター8名
3	令和5年 6月25日 (日) 13:00～15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	6	買い物につい て 七夕について	・アイスブレイク ・買い物のための日本語表現 と会話 ・七夕飾りの作成と日本の行 事体験	日本語指導者1名 サポーター8名
4	令和5年 7月23日(日) 13:00～16:00	3	たきかわ 観光国際 スクエア 近隣地域	8	まち歩き地域 巡検	・アイスブレイク ・まち歩きを通しての日本語 表現 ・買い物体験 ・巡検の様子を発表	日本語指導者1名 サポーター9名
5	令和5年 8月6日 (日) 13:00～15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	1	夏休みについ て	・アイスブレイク ・日本の夏の楽しみ方を考え て日本語で表現	日本語指導者1名 サポーター7名
6	令和5年 8月27日(日) 13:00～15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	2	夏の体験につ いて	・アイスブレイク ・夏の体験について、日本語で 表現	日本語指導者1名 サポーター5名
7	令和5年 9月10日(日) 13:00～16:00	3	たきかわ 観光国際 スクエア パークゴ ルフ場	12	スポーツにつ いて	・アイスブレイク ・北海道発祥のスポーツパー クゴルフでの活動を通して日 本語で交流	日本語指導者1名 サポーター8名
8	令和5年 9月24日(日) 13:00～15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	2	スポーツにつ いて 秋の食べ物に ついて	・アイスブレイク ・スポーツをテーマにした日 本語表現 ・秋の食べ物をテーマにした 日本語表現	日本語指導者1名 サポーター5名
9	令和5年 10月15日(日) 13:00～16:00	3	たきかわ 観光国際 スクエア 市内各所	10	滝川市内巡検	・アイスブレイク ・滝川スカイパーク見学 ・丸加高原見学 ・滝川自然美術史館見学 (見学地にて日本語での説明 及び交流)	日本語指導者1名 サポーター7名
10	令和5年 10月29日(日) 13:00～15:30	2.5	滝川市役 所	10	やさしい日本 語で防災教室	・アイスブレイク ・防災MAP・避難所体験から避 難に必要な日本語表現	日本語指導者1名 サポーター5名
11	令和5年 11月26日(日) 13:00～15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	5	秋の食べ物 年賀状作成	・アイスブレイク ・秋の食べ物をテーマにした 日本語表現 ・年賀状作成体験	日本語指導者1名 サポーター8名
12	令和5年 12月17日(日) 13:00～15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	4	冬のイベント について	・アイスブレイク ・クリスマスやお正月をテー マにした日本語表現	日本語指導者1名 サポーター8名
13	令和6年 1月7日(日) 13:00～15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	4	お正月につい て	・アイスブレイク ・書初め体験 ・日本のお正月の遊びを通し た日本語表現	日本語指導者1名 サポーター5名

14	令和6年 1月28日(日) 13:00~15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	1	季節のイベントについて	・アイスブレイク ・「たきかわかるた」を題材にした日本語表現	日本語指導者1名 サポーター7名
15	令和6年 2月4日(日) 13:00~15:00	2	たきかわ 観光国際 スクエア	3	1年間の活動のまとめ	・アイスブレイク ・1年間の活動をまとめて発表	日本語指導者1名 サポーター7名
16	令和6年 2月17日(土) 15:00~18:00	3	みんくる	4	冬のイベントについて	・アイスブレイク ・紙袋ランタン制作体験 ・紙袋ランタンフェスティバルへの参加体験	日本語指導者1名 サポーター3名

【主な活動】



第3回(6/25)
七夕飾りの短冊を制作している様子



第10回(10/29)
防災MAPを確認している様子



第16回(2/17)
やさしい日本語での作成方法を確認しながら紙袋ランタンを制作している様子

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	【課題】・受講者増に向けた取り組み ・日本語教室を安定的に運営するための活動資金の確保 【対応策】・地域での広報活動の充実とニーズ把握 ・日本語教育の理解促進と補助金等へのアプローチ
--------------------	---

(3) その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
サポーター養成講座	令和5年6月～ 令和6年2月 (全6回)	日本語教室開催2年目となり、継続サポーターが中心のため、スキルアップを目指してOJTの手法による養成講座を実施した。日本語教室終了後、その日の活動の振り返りから日本語の理解の度合いや伝わらない表現を共有し、対応方法を考えた。さらに講師から表現方法や外国人との対話方法等の講義を受け、対応能力の向上につながった。 【実施日】(全7回、1回1時間を基本とした) 6/11 6/25 8/27 11/26 12/17 1/7 2/4
国際交流の夕べ	令和5年5月26日 (金) 19:30~20:30	地域に住む日本人と外国人が気軽に交流できる場として開催されている「国際交流の夕べ」に、日本語教室に参加している外国人を招待して、お互いに交流を持つ場面を設けた。57名(内外国人16名)の参加があり、多くの方と交流することができた。
たきかわ納涼盆踊り大会	令和5年8月11日 (金) 17:00~21:00	滝川青年会議所が主催する事業に、外国人チームを結成して参加した。地域イベントへの参加意欲を高めることができた。29名(内外国人19名)の参加があり、日本人はサポート役として対応した。

市民講座	令和5年9月24日 (日) 15:00～17:30	講演題 「やさしい日本語講座」 講師 北海道日本語センター 阿部 仁美 氏 「やさしい日本語」の周知及び「やさしい日本語」の使い方のコツを学ぶ場として開催した。滝川市職員全体や一般市民、日本語教室サポーターなどが参加し、講師からの丁寧な説明及びグループワークにより講座が展開された。13名の参加があった。
国際化講演会	令和5年10月27日 (金) 18:00～19:45	講演題 「やさしい日本語で多文化共生」 講師 北海道大学 准教授 平田 未季 氏 地域に住む外国人・日本人の関係性から、多文化共生の視点で「やさしい日本語」による交流を目指して、日本語初級話者にどのように話すか、支援の在り方などについて考えるワークショップ型講演会を開催した。38名の参加があった。
体制づくりへの活動	令和5年7月～令和6年2月 (随時)	・滝川市の機構改革により、国際分野の所管が変更になり、これまでの活動状況や課題を説明し、担当課との連携を図った。 ・他団体の視察を実施して、教室運営等の情報収集を行った。(石狩市・北海道庁(総合的な体制づくり)・山形県新庄市など)

【主な活動】



5/26
国際交流のタベ
(集合写真)



8/11
たきかわ納涼盆踊り大会
(集合写真)



10/27
国際化講演会
(多文化共生ワークショップの様子)

5. 今年度事業全体について

進捗状況	概ね計画通りに実施できた。
事業推進にあたり問題点と対応策	・今年度は「日本語教室」の実施回数を増やし、毎回のテーマを日常の生活や日本の文化・季節行事と関連させて、対話交流型の教室を実施した。この活動を通して、本事業の重要性(必要性)についての行政の理解を得ることを目指したが、積極的な関係性を築くことができなかった。引き続き実践を積み重ねることにより、粘り強い対応が必要と感じている。 ・本活動を安定的に推進するためには事業資金の確保が必要であるが、現状は行政からの資金支援は見込めない状況となっている。一般公募による補助金の獲得や支援者を増やす努力の積み重ねを継続したい。
成果	・日本語教室「たきかわにほんごひろば」の活動実績により、地域に住む外国人と地域住民との接点が増え、技能実習生等、地域に住む外国人とのつながりが大きくなった。 ・協会広報誌や新聞などのメディア、FMラジオ番組など多様な広報活動によって、地域に日本語を学ぶことが出来る場所があることの認知度が向上した。
地域の関係者との連携による効果	・外国人人材を採用している企業及び担当者との連携を増やすことにより、技能実習生等の実態把握につながった。 ・地域住民へのアナウンスからサポーターの発掘につながり、将来の多文化共生を支える人材としての成長が期待できる。 ・市民講座や講演会などの関連事業を地域住民向けに開催することを通して、「やさしい日本語」の存在を広めることが出来た。

コーディネーターの 主な活動	① ニーズの調査(15H) ② 体制整備のための調整(95H) ③ 人材育成のための調整(35H) ④ 日本語教室開設及び運営のための調整(88H) ⑤ 教材作成に向けた調整(10H) ⑥ その他(23H) (具体的な内容: 他団体視察等23H)
アドバイザーの 主な助言	・3年間の活動のまとめに対して、次のような助言をいただきました。 ・日本語教育(教室)のない地域に教室を作るという事は、外国人が生活の場をどのように得るのかという点で、ホスト役がしっかり考える必要がある。この3年間は試走の時間で、国際交流協会の持っている強みを特徴にしながら地域の応援を得て進めることが重要。 ・コロナ禍での3年間で制限のある中、非常に頑張ってきたと思う。参加についても人数だけでは図れない。社会インフラとして継続することが大事で、今後家族滞在などが増加し、子どもの教育や安全面の担保として地域の受け皿は必要。 ・「技能実習制度の改定などの動きもあり、今後、就労者に対して一定程度の日本語能力を求められる動きがある。社会基盤としての日本語教育の場は今後、重要になる。その場を、地域で誰が担い、どのように確保するのか、今後の検討が必要。 ・外国人が地域の力となっている場面づくり。現在計画している外国人の料理教室も良いし、外国人がボランティアに参加するなど、地域の一員であることをPRするなどのコミュニティづくり、仕掛けづくりは国際交流協会の得意としているところであり、そこでやるメリットがある。モデルケースになれる可能性がある。外国人の日本語能力は「たきかわにほんごひろば」だけでは足りないので、外国人の居場所づくりなども含めて検討、ぜひ実践してほしい。 ・教育的効果としては、高校生などの若い世代を活用することも考えたらどうか。 ・運営資金が厳しいことが残念。各種の補助金やクラウドファンディングなどの活用も検討すること。
今後の課題	・日本語教室を運営する上での活動資金が乏しい中での活動方法の検討。 ・「たきかわにほんごひろば」の効果的な周知方法。 ・持続的な活動にするため、主体的に教室運営に関わる人材の確保。
今後の予定	(1) 今後の日本語教育事業の展開について ① 日本語教室の展開 文化庁事業の実践を通して、地域での日本語教室を継続的に実施する方法を体得する事ができた。この知見を活用して、可能な範囲で日本語教室を展開する。 ② 日本語教室の実施主体と行政の関与について 実施主体は、滝川国際交流協会となる。行政の関与については期待薄の状況である。文化庁の資料などの情報提供やシンポジウムのアナウンスなどを通して事業の必要性などについては伝えてきたつもりだが、現時点で行政が関与する方向にはなっていない。 北海道地域日本語教育推進体制整備事業等との連携や、滝川市の多文化共生施策の制定と日本語教育の位置づけについて粘り強く交渉する。 ③ 財源の確保について 確保の目途はたっていない。協会が応募できる補助金などの獲得を目指す。 (2) 今後の予定(取組等) 協会内でできる規模や実施回数などを勘案しながら、「にほんごひろば」の活動や外国人の居場所づくりとしての事業を継続する。

本件担当: 一般社団法人 滝川国際交流協会